

健康倶楽部 十日町  
グループホーム ゆきんこ

十日町市

みさと苑からのお客様受け入れの件ですが、バタバタしているうちに、一ヶ月が過ぎてしまったような感じですか。

食事作りが各ユニット5人ずつ多い(通常は9名のところ14名)状態でしたので、洗う食器が多くて大変、食器の数が足りない、何よりお客様の普段の状態などが分からないため、食事形態などの指定は分かるにしても、どの程度の見守りで良いのかという判断に困りました。

● 3月11日からの流れ:

【3月11日】

グループホームでは歌謡ショーを行って行きました。

歌謡ショーも終わり、さて皆でお茶でも...というタイミングで東北関東の地震が起きました。

【3月12日】

明け方の地震以降は写真など撮っている余裕は有りませんでした。結構な数、食器が割れました。

【3月13日】

以前から予定していたGHでの夜間対応避難訓練日でした。

近所にチラシを配布していたため、地域防災協力員の方も参加して行う予定でした。

地震があった直後なので、今までに無い参加率となりました。

また、この日は、みさと苑からのお客様受け入れの日でした。

地域防災協力員の方々とは、地震の話を中心に防災に対する様々な意見を交換しましたが、みさと苑のお客様受け入れの為、防災に対する簡単な話をして、お帰りにいただくことに...

あとはバタバタでした。  
(グループホーム ゆきんこ)

内山博之

健康倶楽部 かわぐち

長岡市 旧川口町

デイサービス

参加できる方から毎日デイサービスのレクリエーションに参加していただき、いつも一生懸命取り組んでくださいました。

デイサービスご利用のお客様と一緒に体を動かし、笑って楽しんでいただけたいと思います。

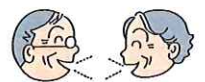
挑戦！二人羽織



夕食前のひと時とても和やかに、ゆったりと。

グループホーム さくら

みさと苑のお客様と毎日一緒に食事をしたり、レクをしたり分け隔てなく仲良く出来たように思います。中には前からいるのでは?と思うほどなじまれたお客様もいらっしゃいました。これを機に交流が継続できればよいと思っています。



さくらでもりハピリ体操覚えたよ!



みさと苑のお客様と仲良くお話し

みなさんで余興を観覧し拍手!



ボランティアの皆様

【特養 分水の里より】

並木三千子さん・知能亜希さん

【特養 桜の里より】

金子由香里さん・斎藤香織さん

【介護福祉会】

大越幸栄さん・岩崎朋子さん

(健康倶楽部かわぐちグループホーム さくら 係長 高橋舞子)



健康倶楽部 中子の森  
グループホーム 深雪

小千谷市

みさと苑のお客様にこちらで過ごすにあたり安心して生活して頂けるような声かけを職員皆で協力して行いました。

職員の関わりだけでなく、みさと苑のお客様、深雪のお客様の交流する場面も沢山みられました!!

皆と一緒に歌うと楽しいね~



### 桜餅作り



# 東日本大震災での東北地方への支援について

社会福祉法人苗場福祉会は、医療・介護の「湖山医療福祉グループ」の一員です。

「湖山医療福祉グループ」は、全国の医療・介護施設21法人が形成している、従業員数5500名程のグループです。

6年前の中越大地震の折、津南町も被害を受けましたが、その際にはもつと被害の甚大であった十日町や小千谷の施設に入所されている方を介護老人保健施設みさと苑やグループホームひまわりで受け入れました。みさと苑の職員の中でも被災して出勤が出来ない人も多く、介護員が不足しましたが、全国の湖山グループの仲間たちを始めとするたくさんの方々から支援を受け、何とか乗り越えたという経緯があります。

この湖山グループの中には東北方面にも多くの仲間がいます。中でも気仙沼市の「はまなすの丘」という施設では、幸い高台にあったため津波の被害は逃れたものの、電気や水道などライフラインが断絶し、電話も通じない状況に陥りました。

3月11日東北地方で震度7との情報を得、すぐさま湖山グループ内で

支援の態勢づくりが始まりました。道路状況など全く分からなかったため、まずは、支援物資を「こここの杜」に集め、ここを中継点として、

こころの杜へ届いたトラックいっぱいのおもむつ



こころの杜に集まった支援物資

山形の「緑愛会」を経由して気仙沼に物資を送ろうということになり、支援物資の受入れ、整理、発送を担当しました。

翌12日には被災地へ支援物資を送り始めています。

その物資を山形の緑愛会の方々が定期的に新潟、宮城をトラックで往復し、支援物資を届けてくれました。他にも鳥取県の日翔会もトラックで駆けつけ、現地までトラック搬送をしていただきました。

総計20トンを超える物資を運んだ勘定になります。



緑愛会（山形）での積み込み作業





現地から「野菜がほしい」との声を聞き、  
地元のスーパーや商店より取り寄せた

とにかく「はまなすの丘」と連絡が取れないと何を必要としているのかも分かりません。  
そこで東京のグループのメンバーが衛星電話を手配し、それを越後湯沢まで届け、それをこころの杜に持ち帰り、トラック便を出している山形の緑愛会メンバーに渡し、はまなすの丘まで届けてもらったという経緯もありました。  
運んだものは、水、紙おむつ、寝具、衣類、食料品（レトルト、缶詰、お菓子等）、衛生製品（ハブラシ、おしり拭き、シャンプー、石鹸）、ポータブルトイレ、ホッカイロ、電池等。



荷物の送り状や励ましのお便りの束

13日には全国から続々と支援物資が届き始め、約2週間はバタバタとこの作業を繰り返しました。  
東北の方々はまだまだ大変な状況が続いています。一日も早い復旧を心より願っています。



平成23年3月に特別養護老人ホームこころの杜のサテライト型施設として、こころの杜の隣に「健康俱樂部つどい」がオープンしました。地域密着型の小規模特別養護老人ホーム29床（3ユニット）とグループホーム18床（2ユニット）、一般デイ



平成23年3月1日  
オープンしました！

サービス（25名定員）、認知症対応型デイサービス（12名定員）の複合施設です。お客様及びご家族、地域の皆様に愛され、頼られる施設作りと、お客様が住みなれた地域で生活を継続できるようにお手伝いしていきたいと思えます。  
（健康俱樂部つどい）  
所長 西野一巳

編集後記

今号は、急遽内容を変更し、震災からの復旧特集号とさせていただきます。  
被災状況とお客様の様子、東北への支援と活動内容のご報告、また、多くの方々からご支援いただいたことに感謝の念をお伝えしたかったからです。  
日頃のお客様の笑顔をたくさんお届けできるいつもの広報紙に一日も早く戻したいと願っております。